



所長の部屋



今さら聞けない病気の常識 : ⑩ 脳卒中 — ①脳梗塞

京都府南丹保健所長 時田 和彦

一般に脳卒中と言われる病気には、①脳梗塞、②脳出血、③くも膜下出血、の 3 種類があります。今回はその中で、最も頻度の高い脳梗塞についてご説明します。

梗塞とは、動脈が詰まったために、詰まった先の細胞が死んでしまう疾患です。脳に起こると脳梗塞、心臓だと心筋梗塞で、血管のある臓器であればどこでも起こり得ます。脳梗塞は、さらに脳血栓と脳塞栓に分けられます。

脳血栓は、血管に血栓(血のかたまり)が出来て血管が詰まる疾患です。比較的太い血管で起こるアテローム血栓性脳梗塞と、細い血管で起こるラクナ梗塞の、主に 2 つに分類されます。前者は全身の動脈硬化が強い人に多く、後者は高血圧の人に多い特徴があります。

脳塞栓は、心臓などで出来た血栓が流れて、脳の血管に詰まる疾患で、心房細動という不整脈のある人に多く発症します。

脳梗塞の症状としては、顔や手足の麻痺やしびれ、発声や会話がおかしい、物が二重に見えるなどで、これらが出現した場合は救急車を呼びましょう。眩暈のみの場合は、多くは耳鼻科疾患ですが、ときに脳梗塞の症状のこともあります。

病院では、MRI や CT などの検査で診断します。

治療方法はいくつかありますが、発症 4 時間半までに t-PA と呼ばれる薬剤を使用すると、かなり症状が改善することがあります。早期診断、早期治療が大切です。

もっと大切なのは、脳梗塞にならないことです。アテローム血栓性脳梗塞では糖尿病、脂質異常症、高血圧症を伴う人に多く、これらをしっかり治療することです。ラクナ梗塞では血圧のコントロールが特に大切です。脳塞栓の予防には、心房細動がある人は医師に相談し、指示があれば血液のサラサラになる薬を服用しましょう。